

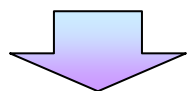


美しい四国づくり宣言の 今後の展開について

1. 景観行政のこれまでの流れ

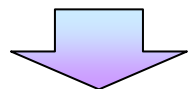
昭和60年代

全国の自治体で景観行政の重要性が認識され、取り組みが本格化



平成15年
7月

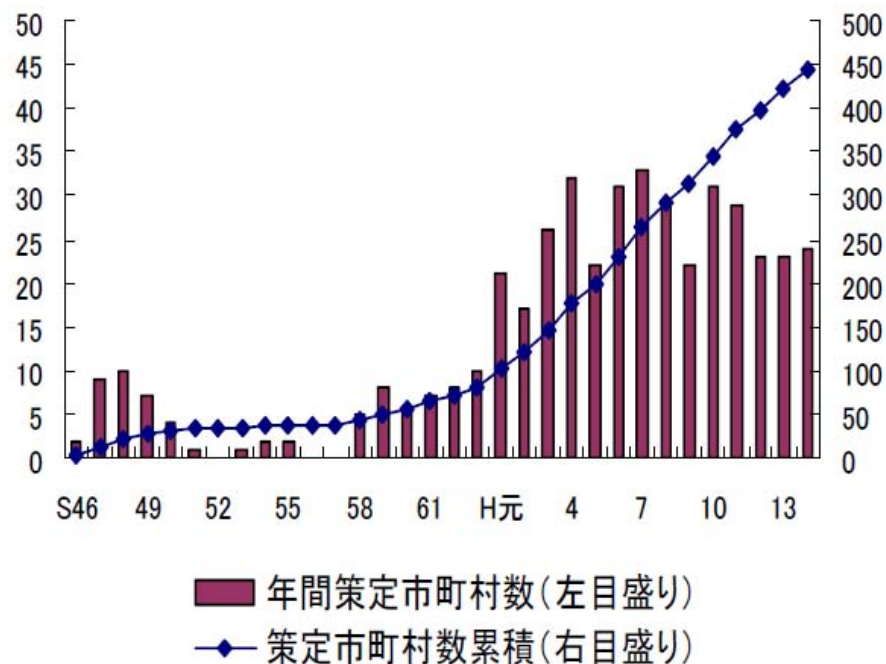
「美しい国づくり
施策大綱」制定



平成16年
6月

「景観緑三法」の
設立

景観条例制定市町村数の推移



注)国土交通省が市町村を対象に行ったアンケート調査(平成14年7月実施)

(出典)国土交通省「平成15年度版土地白書」

→実行については、試行錯誤の続く都市が多く、どこの地域も悩みながら推進

2. 美しい四国づくりに向けた課題

プロセスの
課題

景観に関するマスタープランは作成したが・・・

意識の
課題

地域の良さに気づいていない・・・

取り組みの
課題

地域づくりに対する具体的な取り組みが・・・

プロセスの
課題

景観に関するマスタープランは作成したが・・・

課題

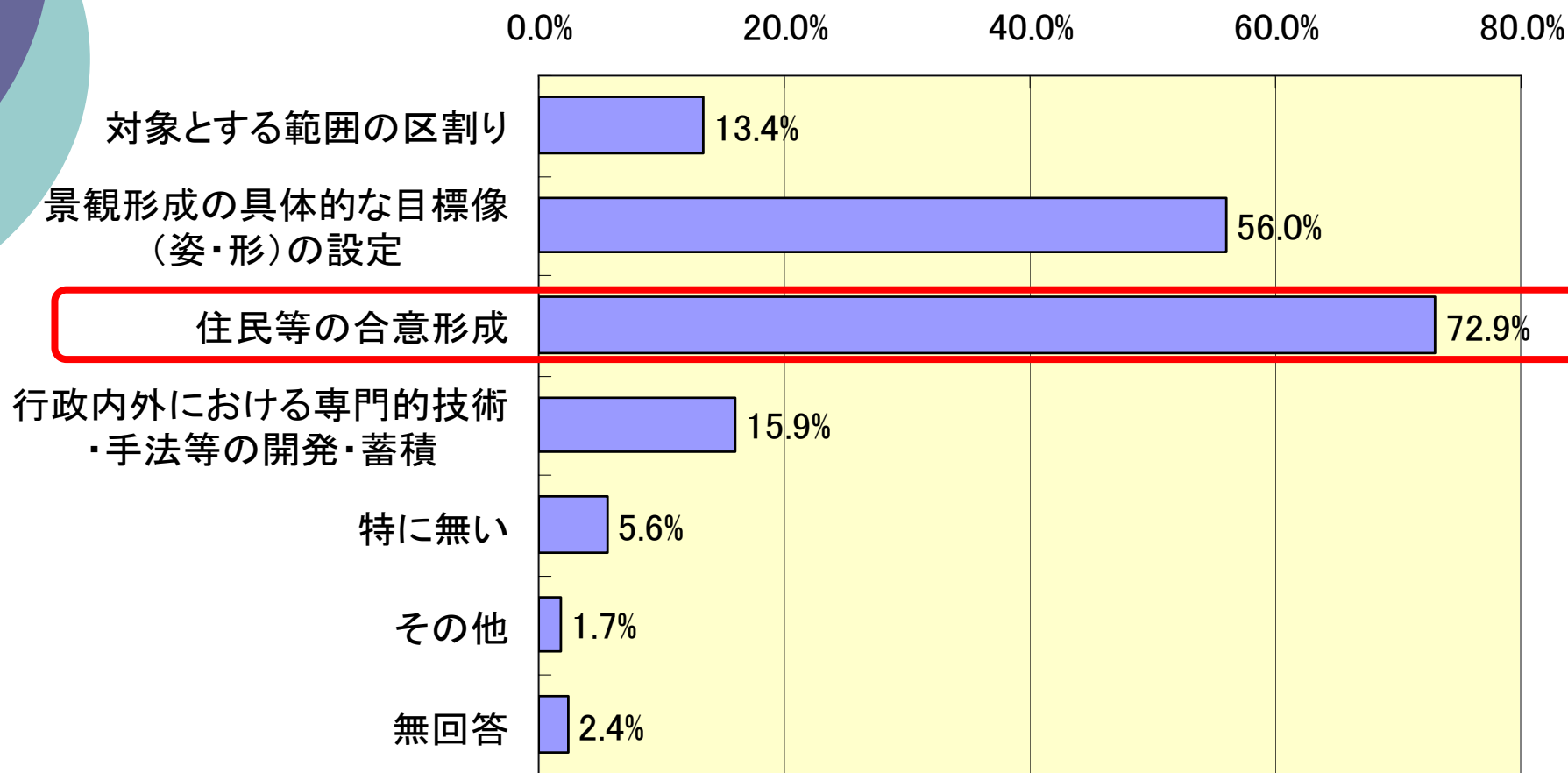
- 景観マスタープランを行政主体で作成
（地域住民と一緒に作成をしていない）
- 地域住民がマスタープランの内容を知らない
- マスタープランにおける「方針」が曖昧



住民の「地域づくりの方針」となっていない
～具体的な取り組みが展開できない～
→立派な報告書より、小さな合意の方が重要

重要な課題は、住民の合意形成

景観形成を検討する段階での重要な課題

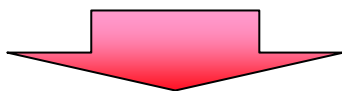


プロセスの
課題

景観に関するマスタープランは作成したが・・・

地域住民と行政の協同による地域づくり

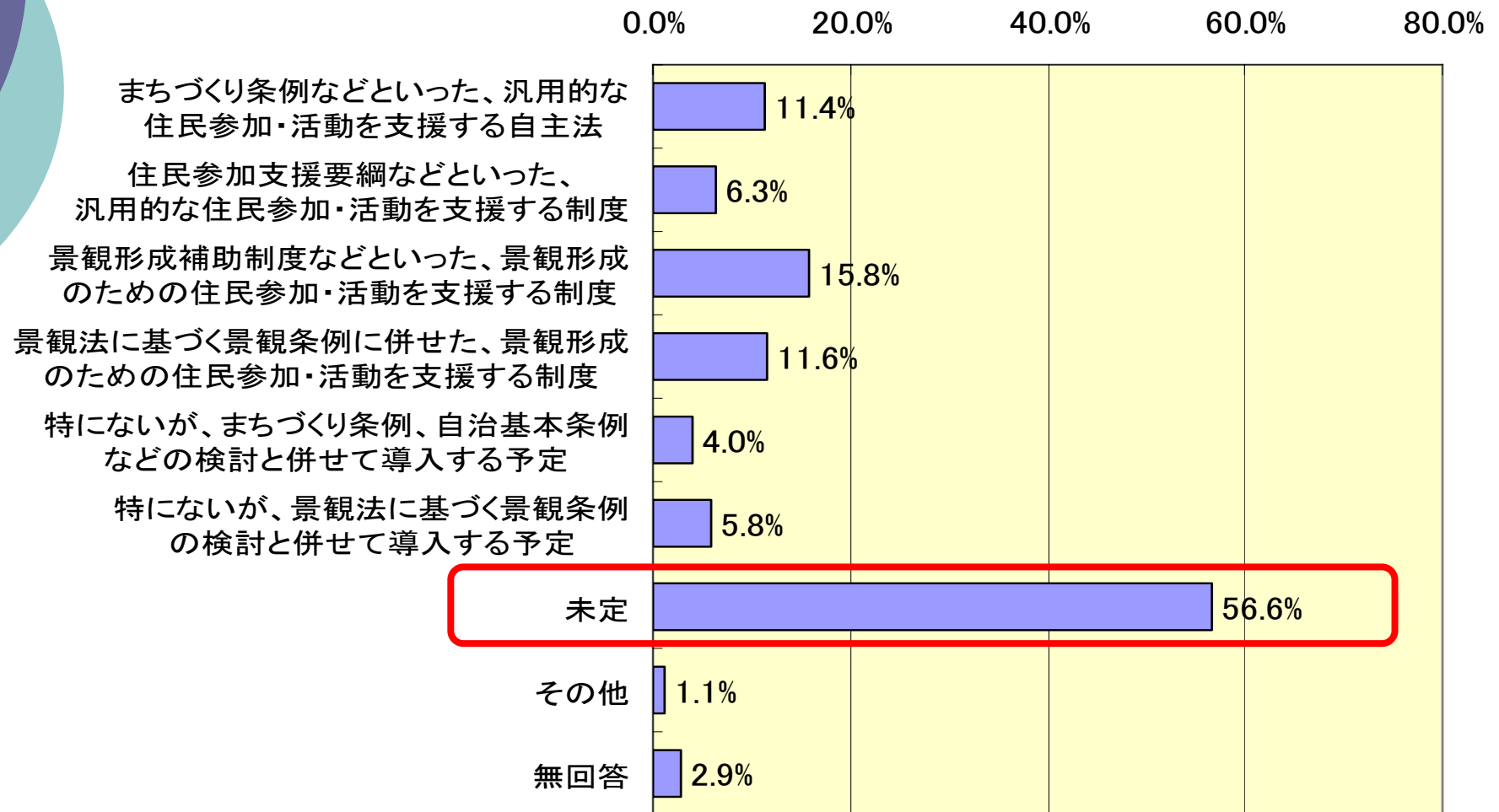
- ・ 多様な主体の参加と連携のもと、
- ・ 地域の自発的取り組みにより、
- ・ 「具体的な地域づくりの方針」を考えること



住民参加を進める支援策の必要性

住民参加の支援・補助を行う施策については 5割以上の自治体が未定

住民参加の支援・補助を行う施策

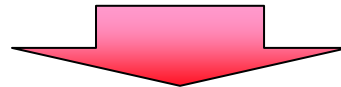


意識の
課題

地域の良さに気づいていない・・・

課題

- 四国、地域の良さに地域住民が気づいていない
- 一部の地域住民しか地域の良さを理解していない
- 一部のリーダーが頑張っても、地域住民に広がらない

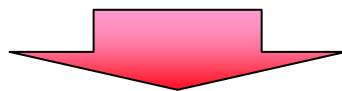


地域独自の個性と特色ある地域づくりを進めていくこと

○豊かさの原点

=心の充実した暮らしの実現

自分の土地を愛し、誇りに思い、
生き生きと暮らすこと、
安心して日々を過ごせること



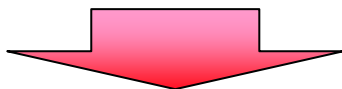
地域資源の見つけ方、活かし方、価値
の高め方が重要

取り組みの
課題

地域づくりに対する具体的な取り組みが
をどうするかが・・・

課題

- 景観に対する関心はあるが・・・
- 具体的にどのように進めて良いかわからない



「地域づくりの具体的な取り組み方法」を
提案していくこと

四国らしい「美しさ」は・・・

四季の中に、歴史の営みの中に、日常の生活空間の中にある

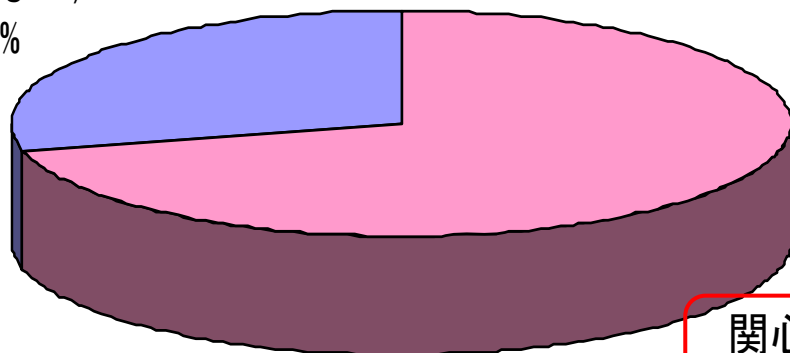


約7割の人が景観に関心を持っている

景観を良くする取組みに参加している人は3割

景観を良くするための取組みへの関心

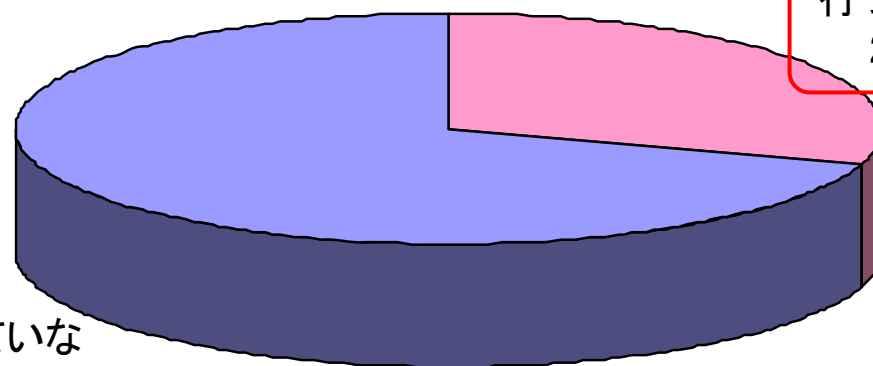
関心がない,
29.0%



関心がある,
71.0%

景観を良くするための取組みの有無

行っている,
29.9%

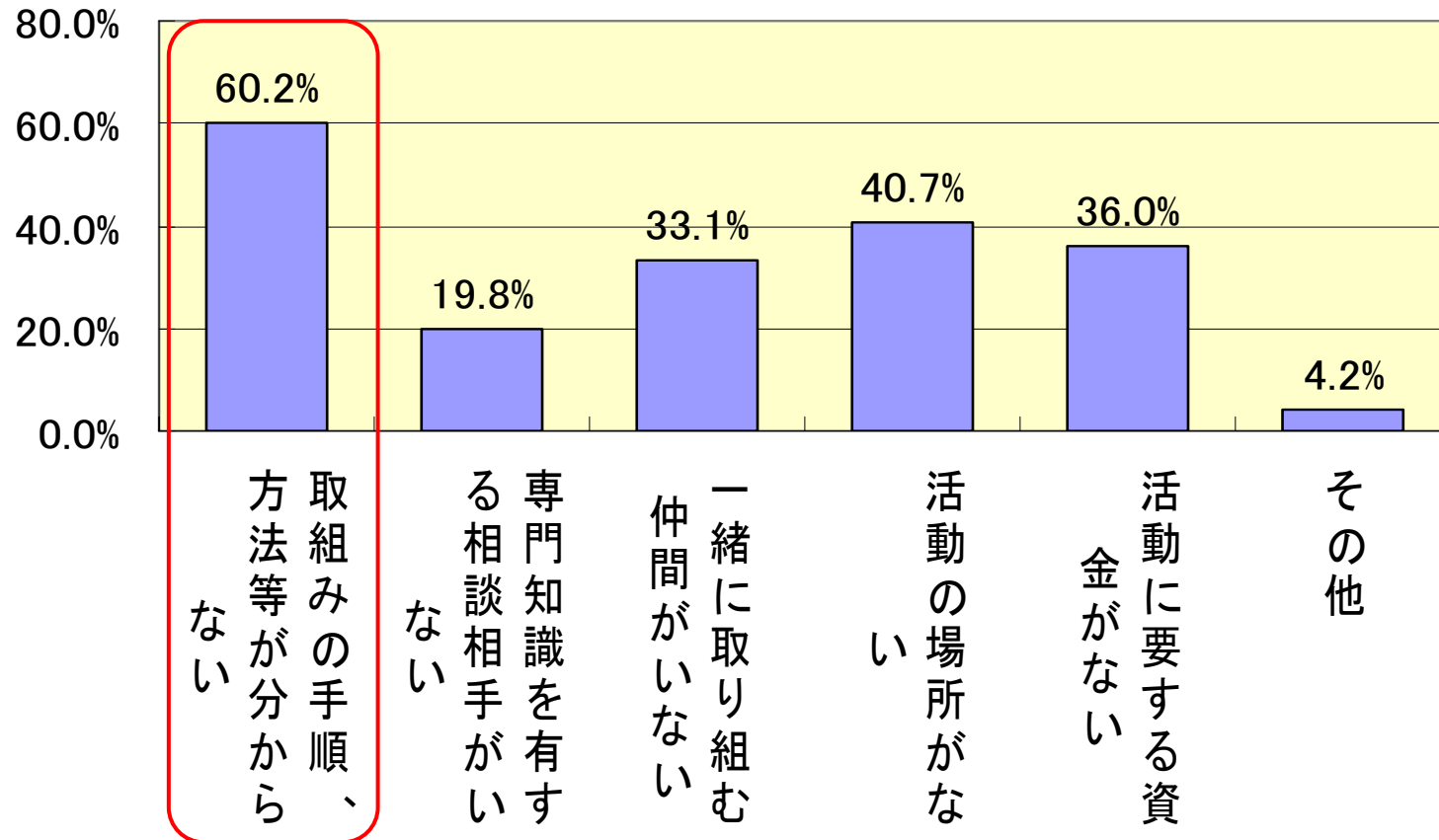


行っていない,
70.1%

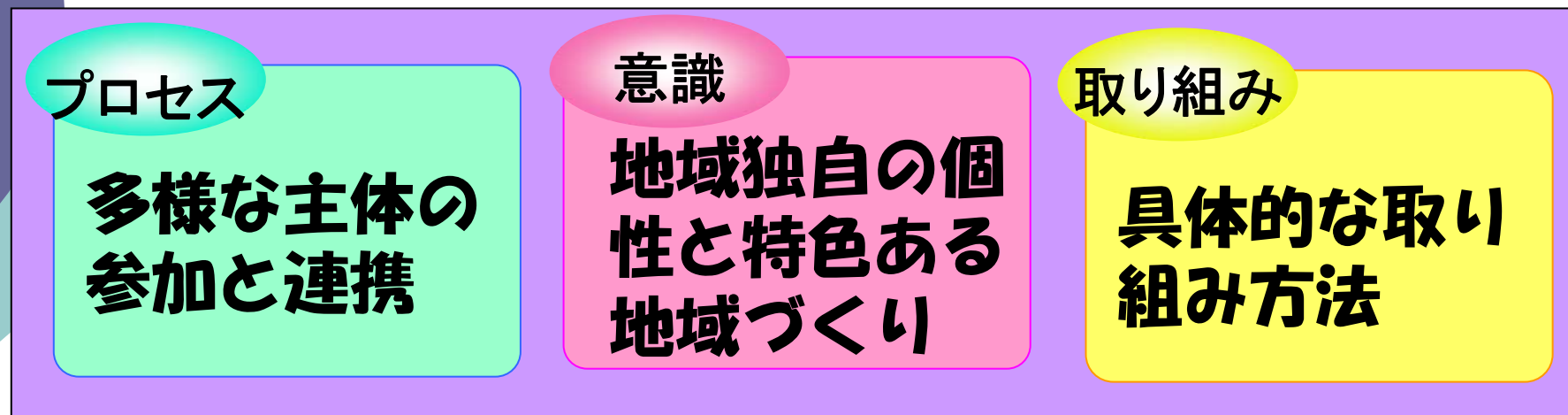
取組みに参加していない理由は

「取組みの手法、方法が分からない」が6割

景観を良くするための取組みを行っていない理由



3. 美しい四国づくりに向けた 今後の活動について



地域づくりは、住民の「地域の魅力の再発見と共有」から！

～地域づくりは、「地域の魅力の再発見と共有」から～

①地域住民が、地域の良さを知ること、再発見すること

②地域の魅力を共有すること

③地域の資源の価値を高める取り組みをすること

歴史的街並みの保全(愛媛県・内子町)

- 1970(昭和45)年代の町並み
- ・現在の観光客で賑わう町並み



歴史的街並みの保全(愛媛県・内子町)

●住宅修景前(成留屋地区)



●住宅修景後(成留屋地区)



地域の魅力の継承

→地域のすばらしさを、小学生、中学生へ
伝える教育の実施




●内子町の棚田(泉谷地区)



第2回 風景づくり夏の学校

—四国風景街道をデザインする—



平成17年夏 内子町
平成18年夏 大島
平成19年夏 今治



風景づくりで大事なことは

- 歩いて、見つけて、感じて、地域のいいところを知ること
- 「いいな」と思う風景をみんなでも話し合うこと
- いい風景を地域の人たちみんなでも共有し、共感すること
- そして、次の一歩を出す方向を、みんなできめること

(愛媛大学4回生)

「美しい四国づくり」の今後の展開

《今後の展開》

美しい四国づくり宣言

「美しく、楽しく、住みやすい、
自慢の地域づくり」を四国全
域で展開

美しい四国づくり宣言を
生かした四国四県の取組
指針を作成・・・

《委員会の役割》

運動推進機関

- ・取組指針、施策
へのアドバイス
- ・取り組み状況の
フォローアップ

検討のポイント

《課題》

プロセス

多様な主体の
参加と連携

意識

地域独自の個
性と特色ある
地域づくり

取り組み

具体的な取り
組み方法

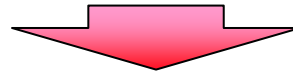
住民参加の支
援を行う施策

地域資源の
見つけ方、
活かし方、
価値の高め方

取組事例
情報発信
交流連携

4. 美しい四国づくり宣言を生かした 四国四県の取組指針の作成

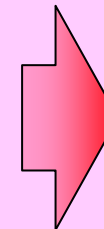
～「地域の魅力の再発見」から始める
取組みを四国全体で展開～



四国の行政担当者による勉強会を実施

勉強会イメージ

- ①これまでの各地域での取組み事例の勉強
- ②モデルプロジェクトでの検討
- ③取組み方針の整理
- ④四県、四国全体への展開



◆美しい四国
づくり四県取
組指針の作成

検討のポイント

《課題》

プロセス

多様な主体の
参加と連携

意識

地域独自の個
性と特色ある
地域づくり

取り組み

具体的な取り
組み方法

住民参加の支
援を行う施策

地域資源の
見つけ方、
活かし方、
価値の高め方

取組事例
情報発信
交流連携

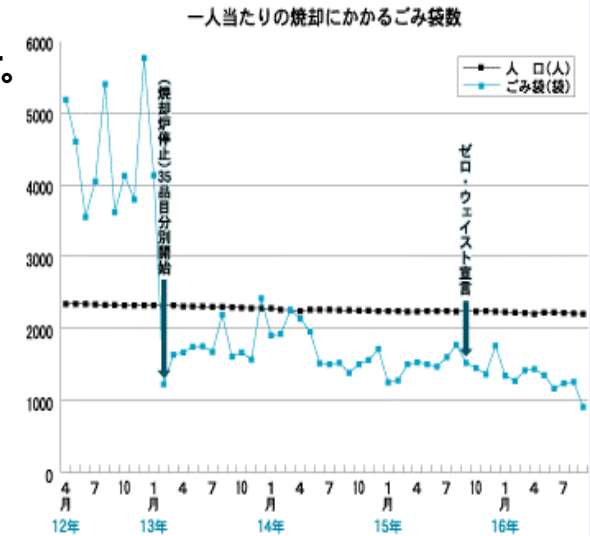
《徳島県 上勝町での地域資源の活用事例》



上勝町ごみゼロ(ゼロ・ウェイスト)宣言

平成13年: 焼却炉を停止し35品目分類を開始
平成15年: 上勝町ごみゼロ(ゼロ・ウェイスト)を宣言。
2020年までに上勝町のゴミを0に

- 上記の取り組みにより、ゴミの量が大幅に減少。
- 町のイメージアップや視察者の増加による経済効果を誘発



「株式会社いろどり」の活動

昭和61年より事業化。

上勝町に豊富にある「葉っぱ」を商品化し、料亭などへの販売に成功

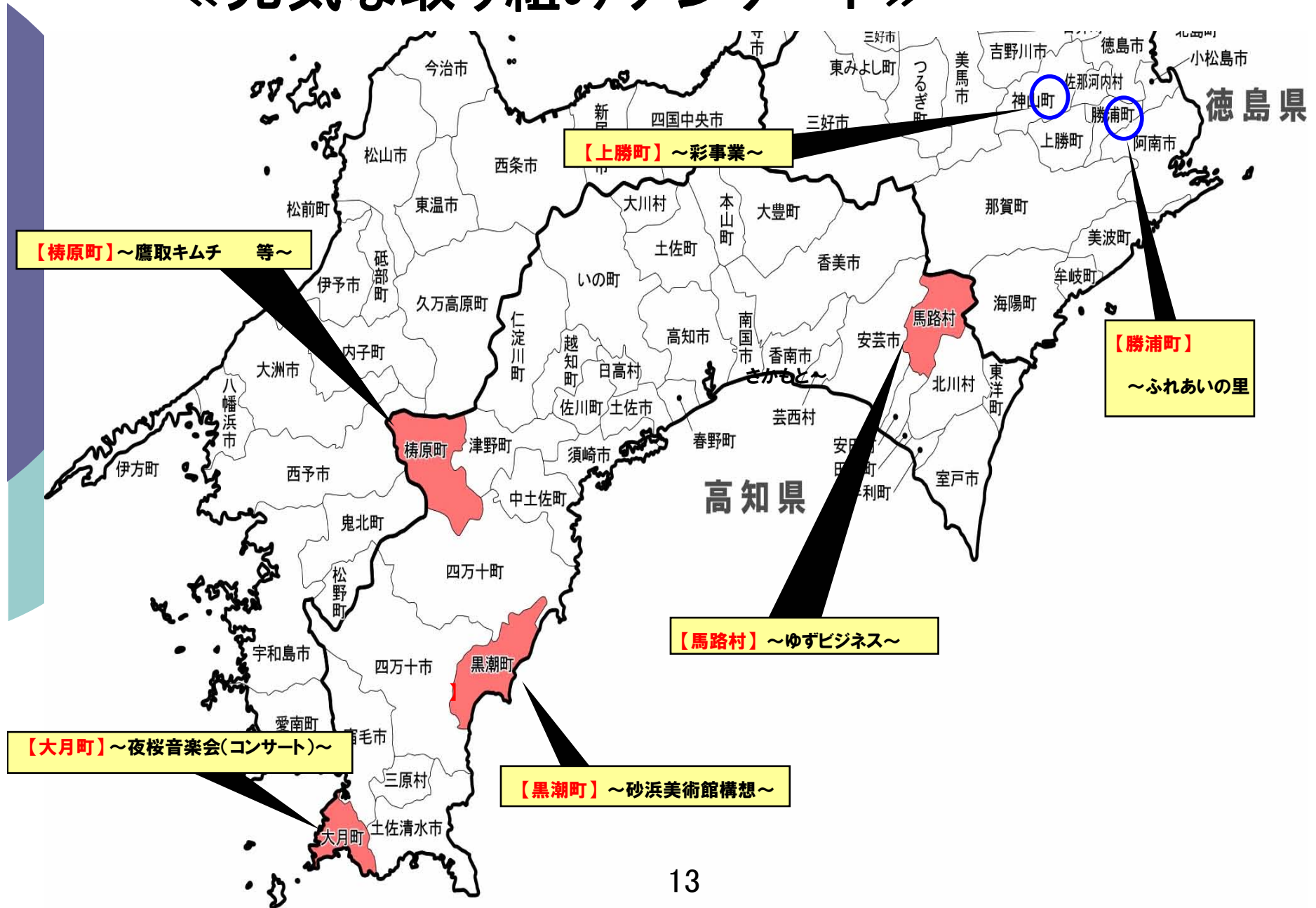
農産物の販売に関する業務の他、

- 建築土木資材用木材加工品の販売に関する業務
- 観光案内に関する業務
- 販売・経営合理化に関するコンサルタント業務

等も手がける。



《元気な取り組みアンケート》



《取り組み方策》

元気な取り組み事例

活用した資源

素材をそのまま活性化のツールに

発想の転換で、使える資源に

成功の要因

地域住民の手による取り組み

取り組みのきっかけ、方向性を導く交流・連携

内外の協働・連携による取り組みの重要性

(更なる発展に向けた)課題・要望

インフラ等の整備による支援

活動資金の確保

将来の担い手の確保

キーワード

資源

豊かな資源を新たな発想で活用する

中山間地域の豊かな資源を再認識し、また、潜在資源を発掘し、新たな発想で活用することで、地域の活性化に向けた展開を図る

ひと

地域活動の主役となる人を育てる

自らの地域のことは地域で取組む意識・姿勢を醸成し、地域づくりを牽引する人材の育成を図る

交流

他地域と交流し、地域活動に係る情報を共有・発信する

地域活動に係る新たな発想や課題解決方法等を見出すとともに、活動の周知を図るため、他地域と幅広く交流し、地域活動に係る情報を共有・発信する

支援

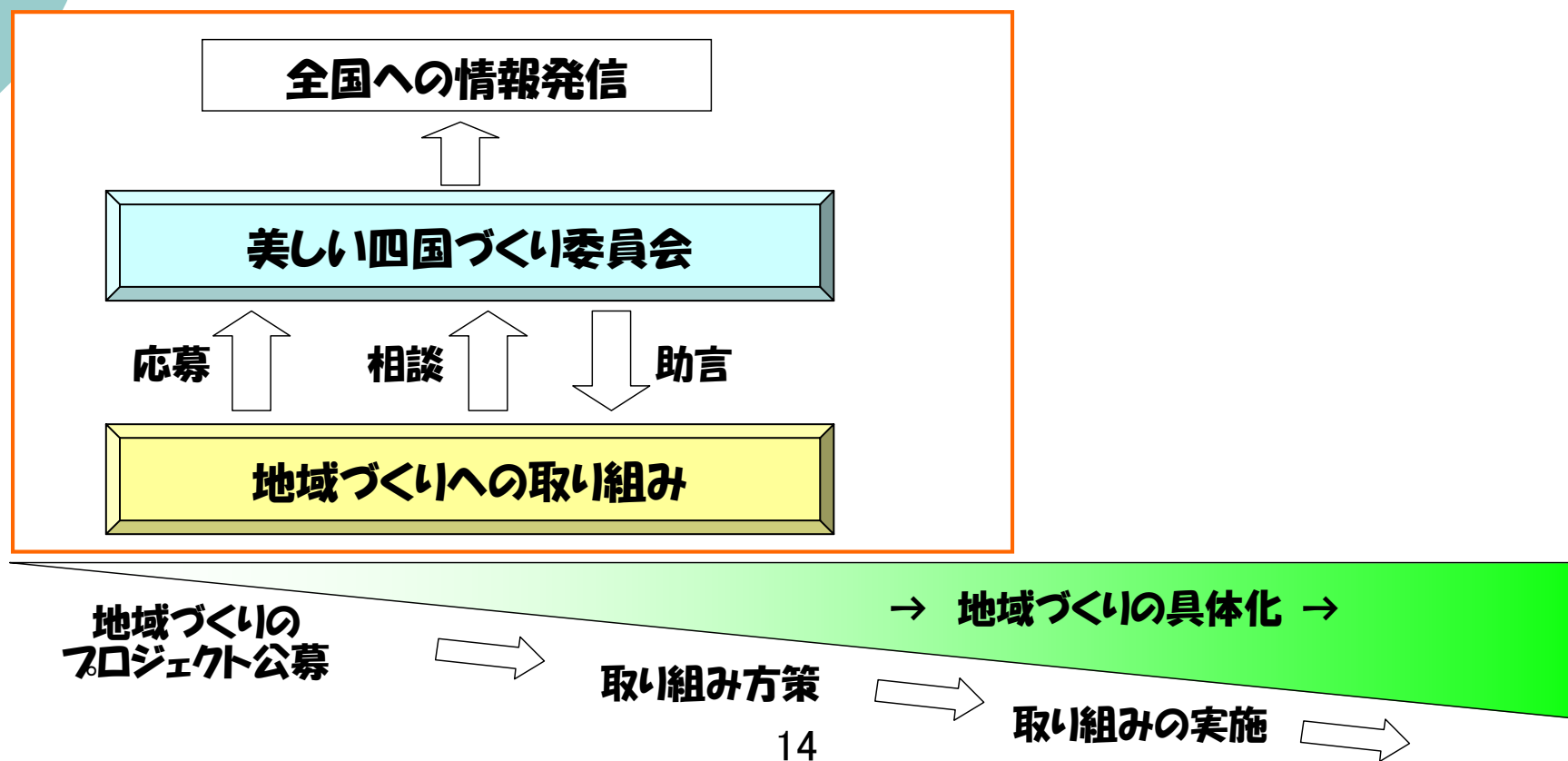
地域の取り組みを支える環境をつくる


地域活動の創出及び継続を下支えするインフラ(情報インフラ、道路インフラ等)の充実等を図るなど、地元行政等が取り組みを支援する環境づくりを図る

■ 美しい四国づくりモデルプロジェクト

モデルプロジェクトの概要

- 地域が主体となって取り組む、地域づくり、風景づくりに関する具体の構想を広く募集し、地域の取り組み状況に応じて、支援を実施

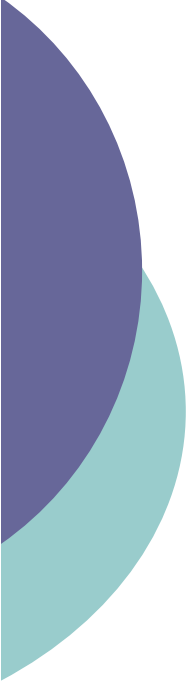




応募要領

- **モデルプロジェクト選定数**
- 平成19年度は第1次募集として3つ程度のプロジェクトの選定を予定。
- 第2次募集は平成20年度に実施予定。

- **募集期間**
- 平成19年10月から平成19年12月



モデルプロジェクトの支援イメージ

- モデルプロジェクトの対象となる美しい四国づくりの取り組み例
 - 農村・漁村、歴史的町並みなど、**ふるさとの美しい原風景の保全と継承**
 - 四国伝統の普請、お接待など、四国に根付く**心の美しさを活かした取り組み**
 - **官民協働による美しい観光ルート**の構築や地域ブランドの創出などに関する**広域的な取り組み**



■ 各地域の課題

- 一部のリーダーが頑張っても、地域の住民に広がらない。
- 調査費が不足して、地域の企画をまとめることができない。
- 専門家がおらず、アイデアを具体的な計画にすることができない。
- 地域内、地域外に対して、情報発信が出来ない。



■ モデルプロジェクトとしての支援とは

- 委員会の有識者が地域に入り、地域の魅力を、地域住民と一緒に意見交換し、シンポジウム、フォーラムなどを開催。
⇒地域住民に、地域づくりの意識が広まる。
- 委員会の活動の一環として、委員会事務局の専門家が、地域住民の取り組みを支援。
⇒地域住民のアイデアを具体化。
- その地域の取り組みを地方整備局が、管内や全国に情報発信。
⇒各地へ情報発信できる。

モデルプロジェクトの支援イメージ

- 長期的なビジョンを見据えた地域の活動を支援
 - 地域の知名度は問わず、小さな活動でも地域の方々のまちや地域を美しくしたいという思いと行動を重視

